

名古屋市における平成 18 年度化学物質の排出量等の届出集計結果

集計数値は、有効数字 2 桁で記載

1 届出制度の概要

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（P R T R 法）及び市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例（条例）に基づき、事業者は、化学物質の排出量等を届け出ることが義務付けられています。届出制度の概要は表 1 のとおりです。

<表 1 P R T R 法と条例の届出制度の概要>

項目		P R T R 法	条例
対象化学物質		P R T R 法で定める 354 物質	
届出事業者	業種	製造業等 23 業種	
	従業員数	事業者が常時使用する従業員数（全社の合計）が 21 人以上	
	年間取扱量	1 トン以上 （ベンゼン等 12 物質については 0.5 トン以上）	
	その他	特別要件施設 ^{（ 1 ）} （年間取扱量に関わらず対象）	
届出内容		排出量 ^{（ 2 ）} 及び移動量 ^{（ 3 ）}	取扱量 ^{（ 4 ）}

（ 1 ）特別要件施設

廃棄物処理施設や下水道終末処理施設など

（ 2 ）排出量

事業所から大気や公共用水域などの環境中へ排出した量

（ 3 ）移動量

廃棄物として事業所の外へ移動した量及び下水道へ移動した量

（ 4 ）取扱量

事業所で製造及び使用した量

2 届出状況

平成 18 年 4 月から翌年 3 月までの 1 年間の排出量等の名古屋市全体における届出状況は、以下のとおりです。

（ 1 ）届出事業所数

取扱量について 509 事業所から届出があり、前年度（530 事業所）と比較すると 21 事業所減少しました。また、排出量及び移動量について 534 事業所から届出があり、前年度（556 事業所）と比較すると 22 事業所減少しました。

なお、特別要件施設は、取扱量の届出の対象外です。

<表2 前年度との届出事業所数の比較>

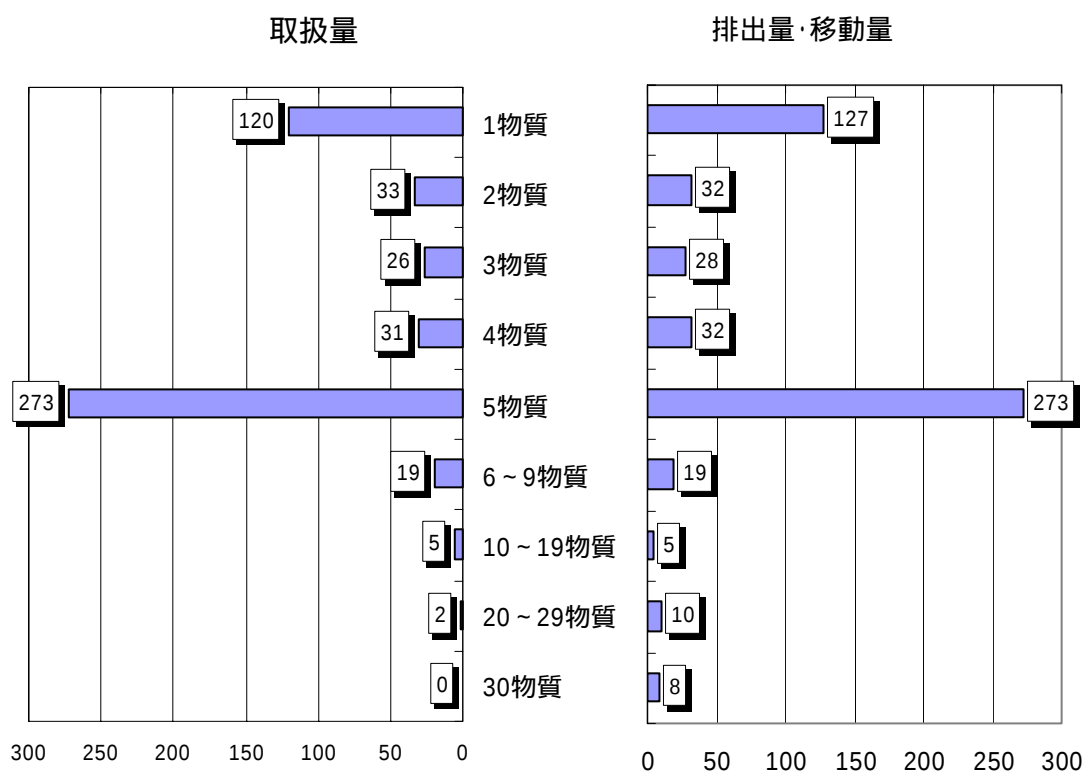
項目	届出事業所数	
	平成18年度	平成17年度
取扱量	509	530
排出量及び移動量	534	556

(2) 届出物質数

届出の対象となっている354物質のうち、取扱量については93物質、排出量及び移動量については109物質の届出がありました。

また、一事業所あたりの届出物質数は、図1のとおりで、5物質が最も多く次いで、1物質の順となっています。その次は、取扱量については、2物質であり、排出量及び移動量については2物質と4物質が並びました。取扱量についての一事業所あたりの届出物質数の平均は、3.9物質となっています。また、排出量及び移動量についての一事業所あたりの届出物質数の平均は、4.7物質となっています。

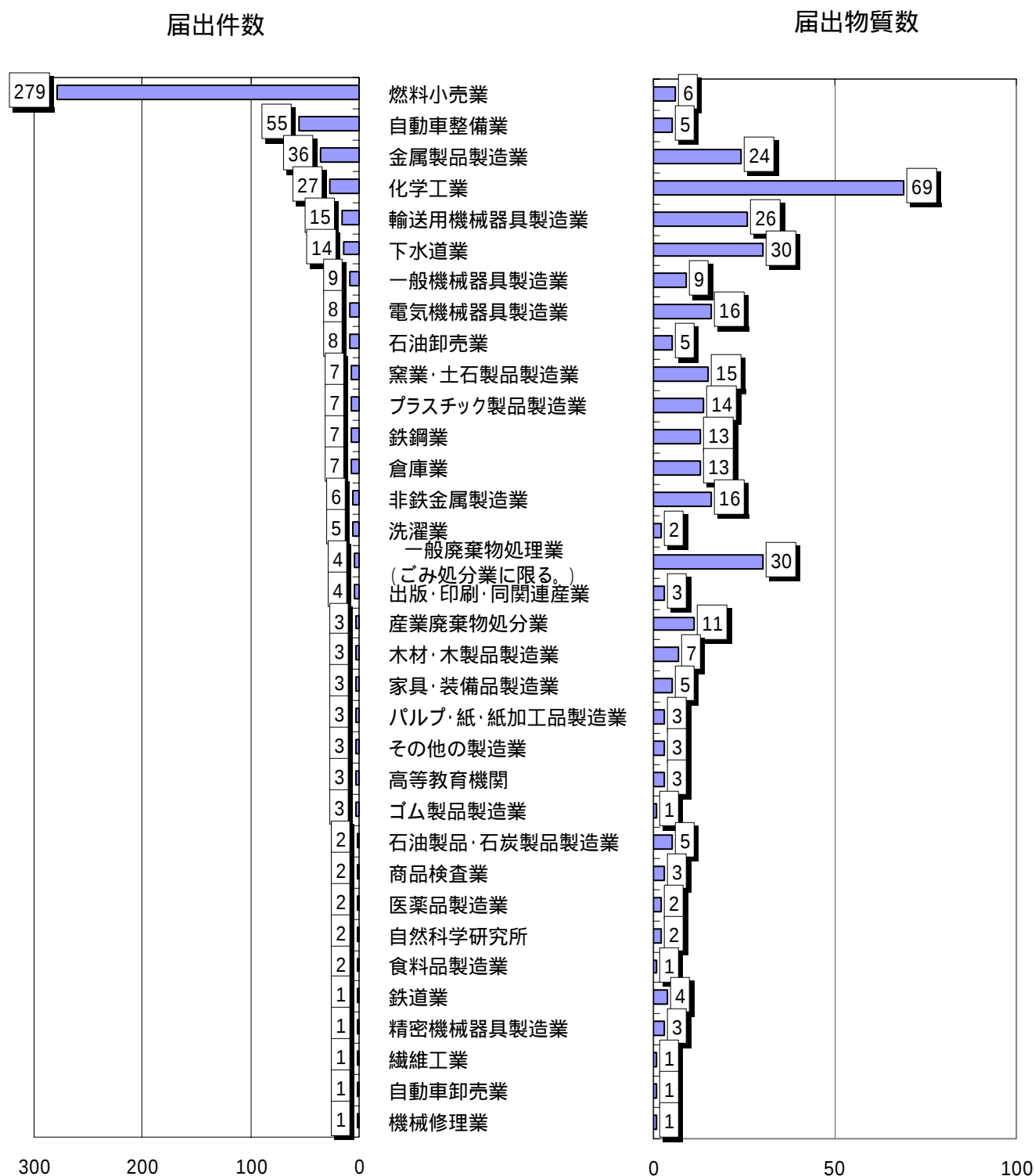
<図1 一事業所あたりの届出物質数>



(3) 業種別の届出状況

排出量及び移動量における業種別の届出事業所数と届出物質数は、図2のとおりです。取扱量の届出においても同様の傾向となっています。

< 図2 業種別の届出事業所数及び届出物質数 >



3 集計結果の概要

平成 18 年 4 月から翌年 3 月までの 1 年間における排出量等の名古屋市全体及び区別の集計結果は、以下のとおりです。

(1) 名古屋市全体の届出取扱量・排出量・移動量・

ア 届出取扱量・排出量・移動量

届出取扱量・排出量・移動量は表 3 のとおりで、前年度と比較すると、「取扱量」及び「公共用水域への排出」の項目は増加していますが、その他の項目は、減少しています。

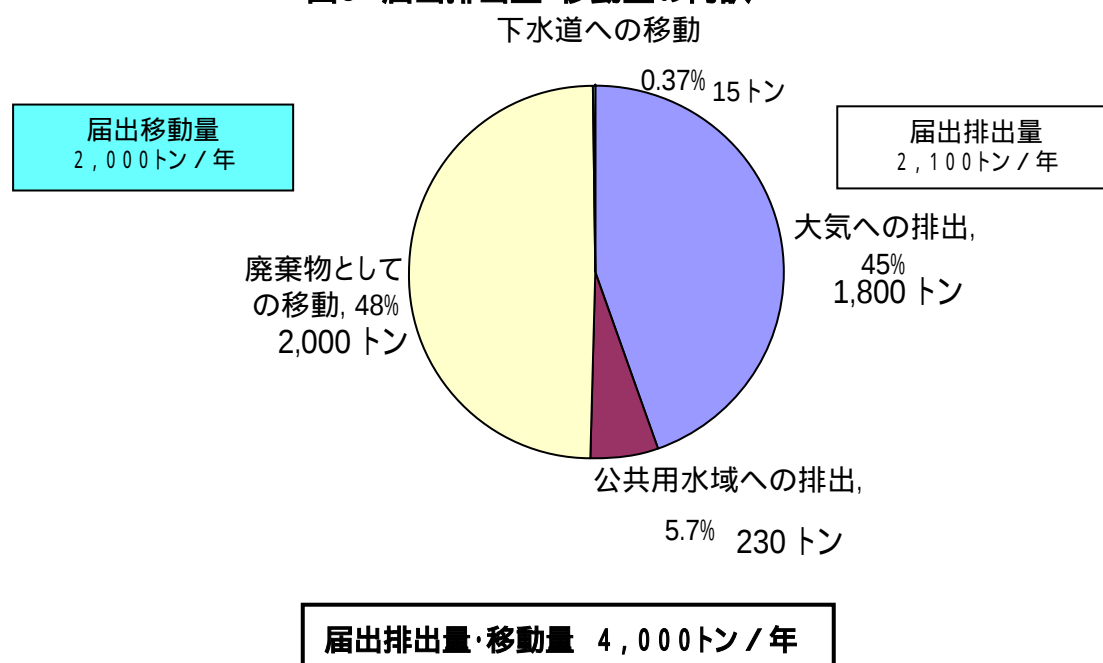
<表 3 前年度との届出排出量等の比較>

項目		平成 18 年度	平成 17 年度
取扱量		950,000 トン	930,000 トン
排出量	大気への排出	1,800 トン	2,500 トン
	公共用水域への排出	230 トン	200 トン
	合計	2,100 トン	2,700 トン
移動量	事業所の外への移動	2,000 トン	2,300 トン
	下水道への移動	15 トン	18 トン
	合計	2,000 トン	2,400 トン
排出量・移動量の合計		4,000 トン	5,100 トン

土壌への排出及び当該事業所内での埋立て処分の届出はありませんでした。

合計の数値は、届出された有効数字 2 桁の数字を集計後、3 桁目を 4 捨 5 入した数字であり、表中の数字の合計とは必ずしも一致しません。(以下同様です。)

<図3 届出排出量・移動量の内訳>

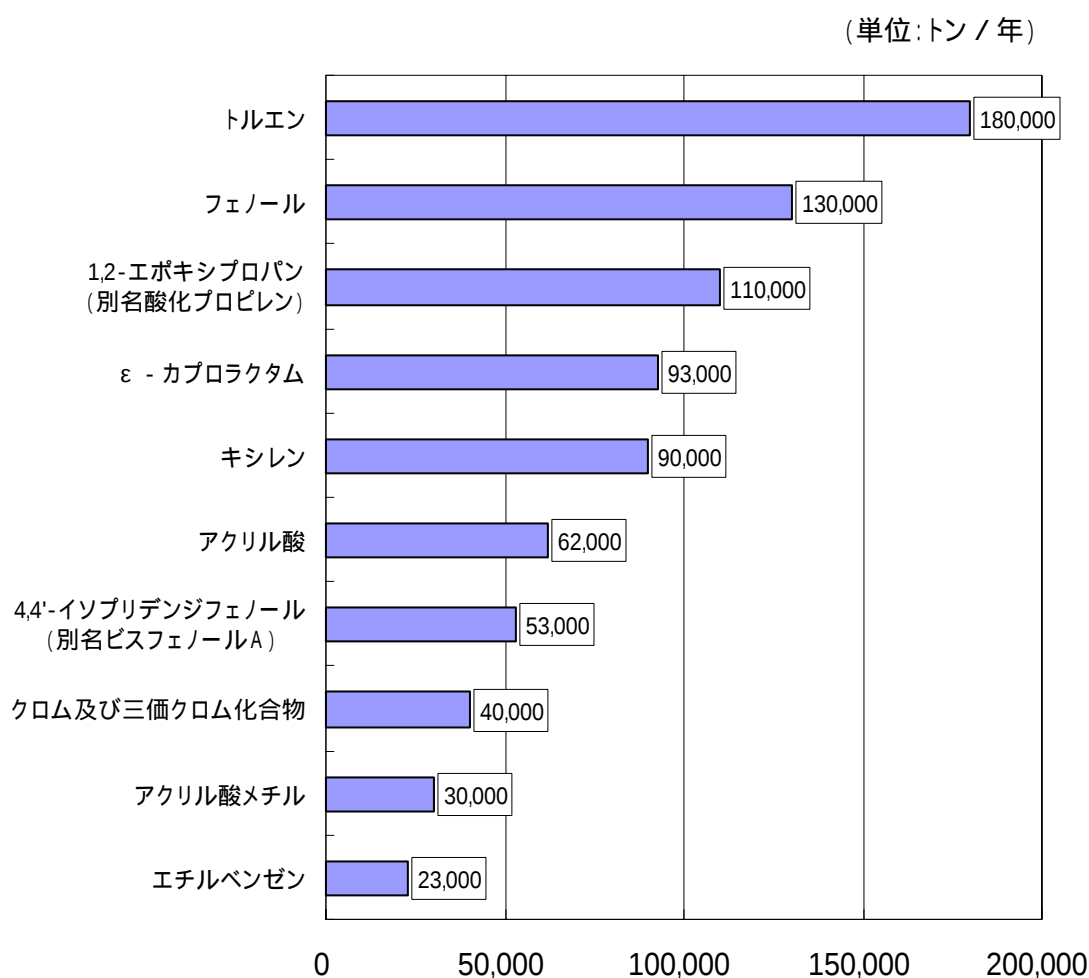


イ 届出取扱量の多い物質

届出取扱量の多い上位 10 物質とその量は、図 4 のとおりで、多い順にトルエンの 180,000 トン、フェノールの 130,000 トン、1,2-エポキシプロパン（別名酸化プロピレン）の 110,000 トンとなっています。

これらの物質の主な用途は、トルエンは、塗料の溶剤や他の化学物質を合成する原料として、フェノールは合成樹脂の原料として、1,2-エポキシプロパンは化学物質を合成する原料として使用されています。

< 図 4 届出取扱量の多い上位 10 物質とその量 >



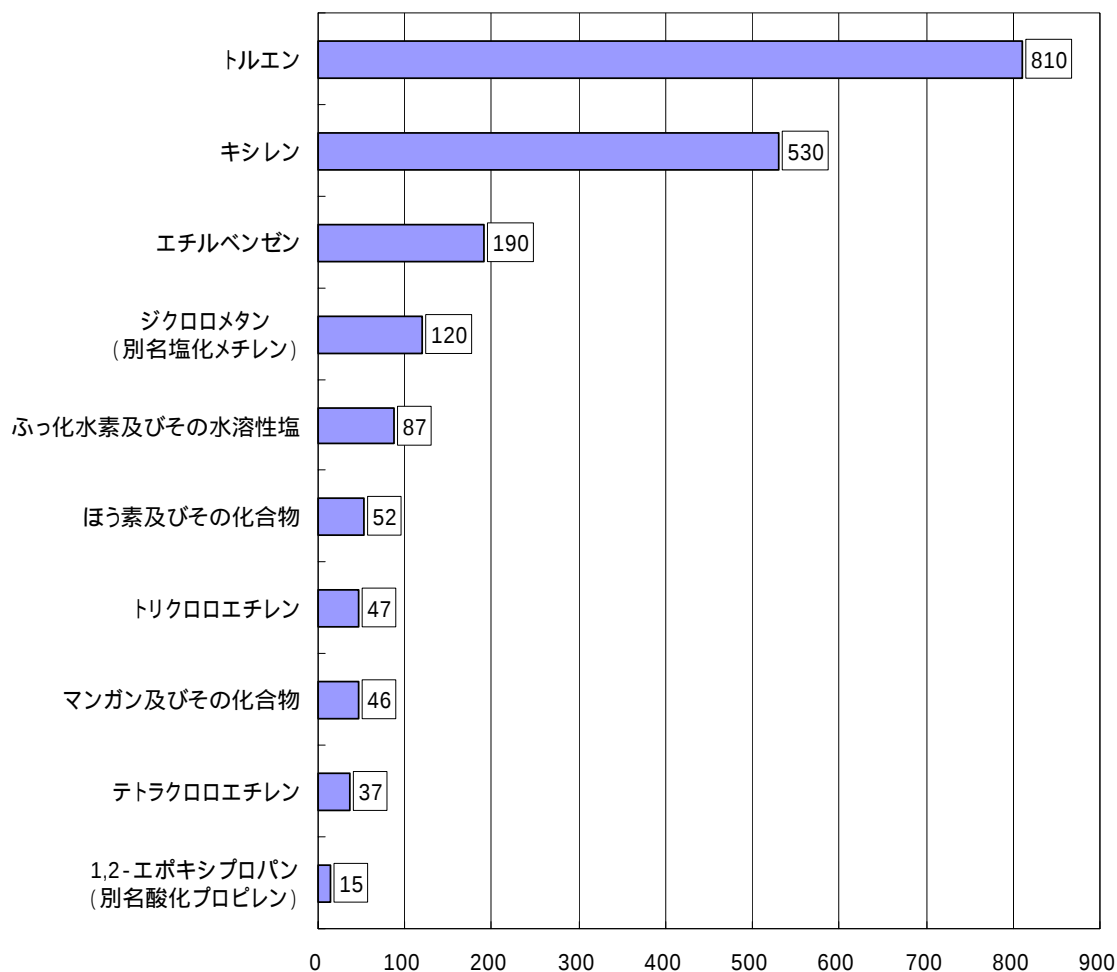
ウ 届出排出量の多い物質

届出排出量の多い上位 10 物質とその量は、図 5 のとおりで、多い順にトルエンの 810 トン、キシレンの 530 トン、エチルベンゼンの 190 トンとなっています。

これらの物質の主な用途は、トルエンやキシレン、エチルベンゼンは塗料の溶剤や他の化学物質を合成するための原料として使用されています。

< 図5 届出排出量の多い上位 10 物質とその量 >

(単位:トン/年)



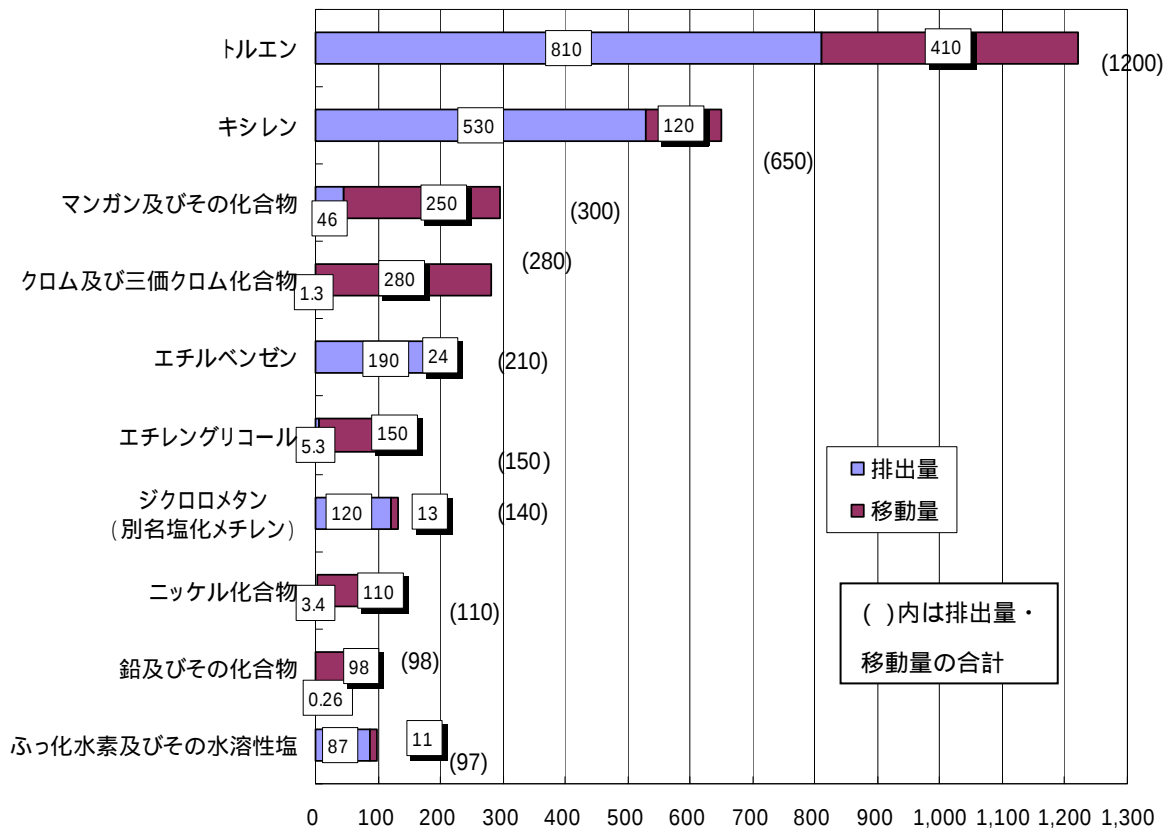
エ 届出排出量・移動量の合計の多い物質

届出排出量・移動量の合計の多い上位 10 物質とその量は、図 6 のとおりで、多い順にトルエンの 1,200 トン、キシレンの 650 トン、マンガン及びその化合物の 300 トンとなっています。

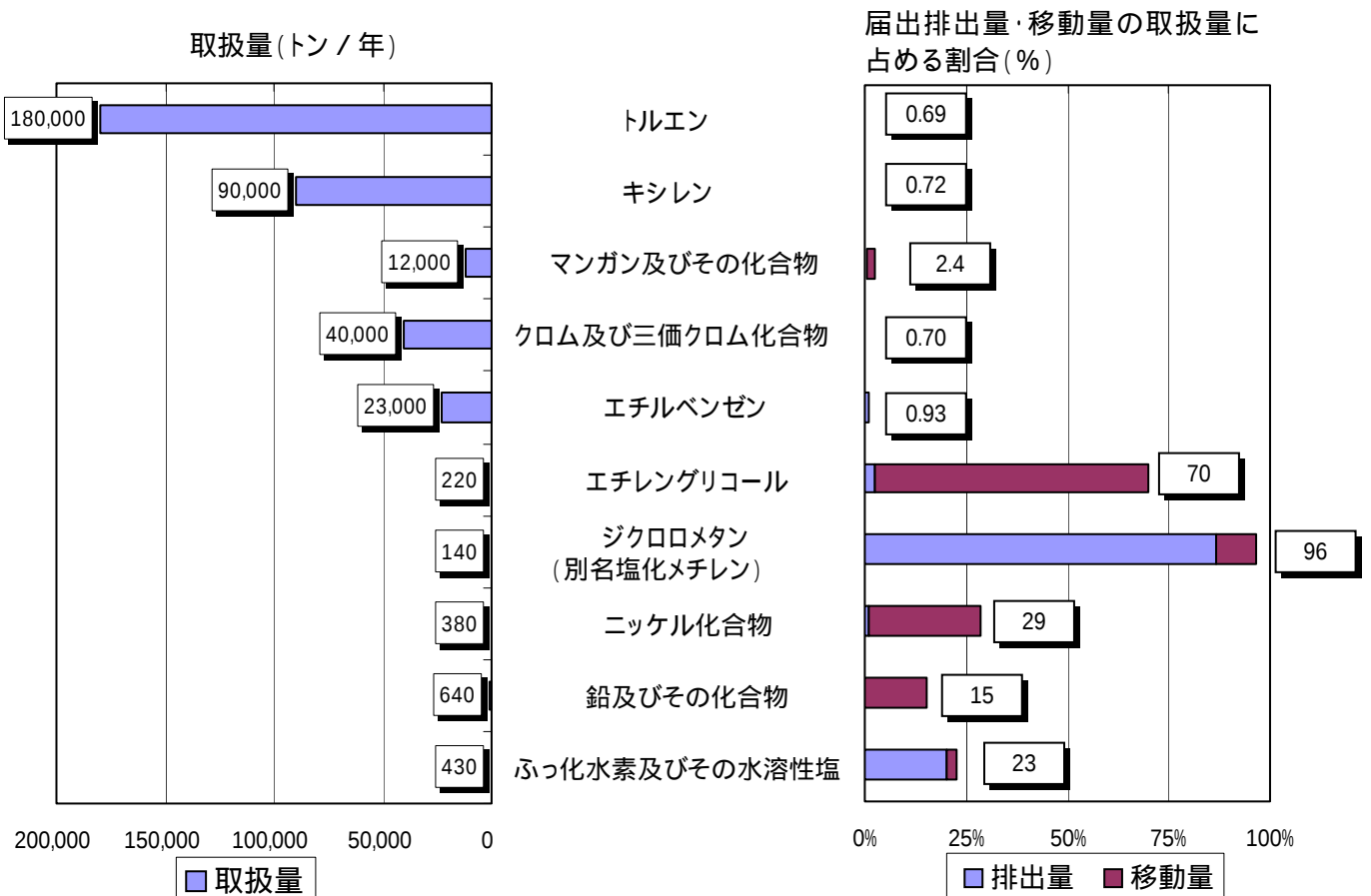
また、これら 10 物質の排出量・移動量の合計の取扱量に占める割合は、図 7 のとおりで、大きい順にジクロロメタン(別名塩化メチレン)の 96%、エチレングリコールの 70%となっています。

< 図6 届出排出量・移動量の合計の多い上位 10 物質とその量 >

(単位:トン/年)



< 図7 届出排出量・移動量の合計の取扱量に占める割合 >

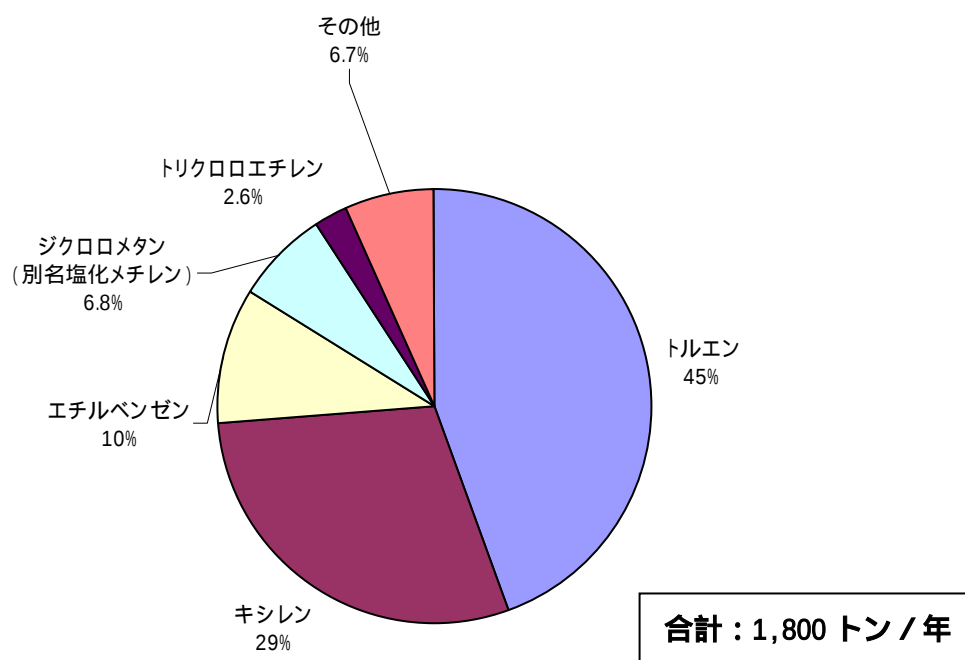


オ 排出先・移動先別の届出排出量及び移動量

a 大気への届出排出量

大気への届出排出量は 1,800 トンで、最も多く大気へ排出された物質はトルエンの 810 トン、次いでキシレンの 530 トン、エチルベンゼンの 190 トン、ジクロロメタン（別名 塩化メチレン）の 120 トン、トリクロロエチレンの 47 トンの順となっています。

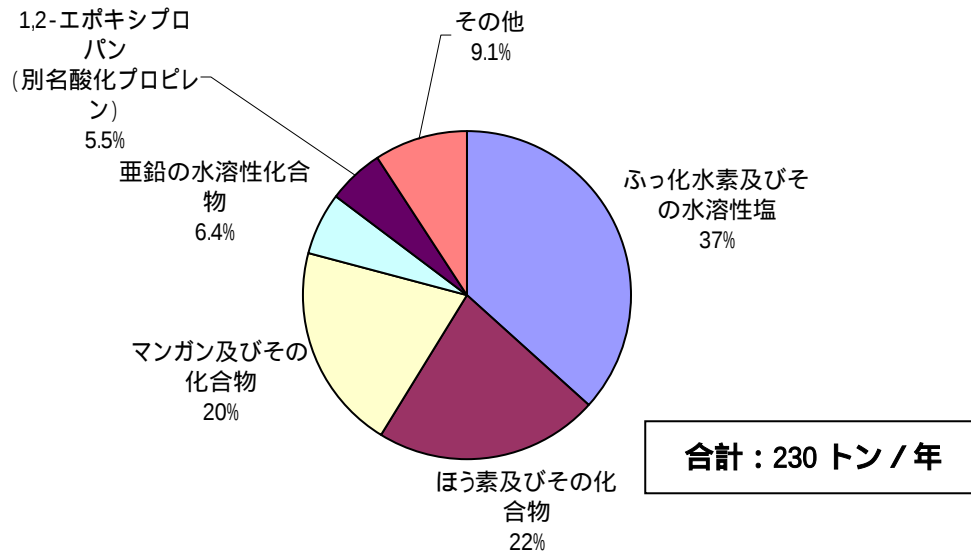
<図8 大気への排出量の内訳>



b 公共用水域への届出排出量

公共用水域への届出排出量は 230 トンで、最も多く公共用水域へ排出された物質はふっ化水素及びその水溶性塩の 85 トン、次いでほう素及びその化合物の 51 トン、マンガン及びその化合物の 46 トン、亜鉛の水溶性化合物の 15 トン、1,2-エポキシプロパン（別名酸化プロピレン）の 13 トンの順となっています。

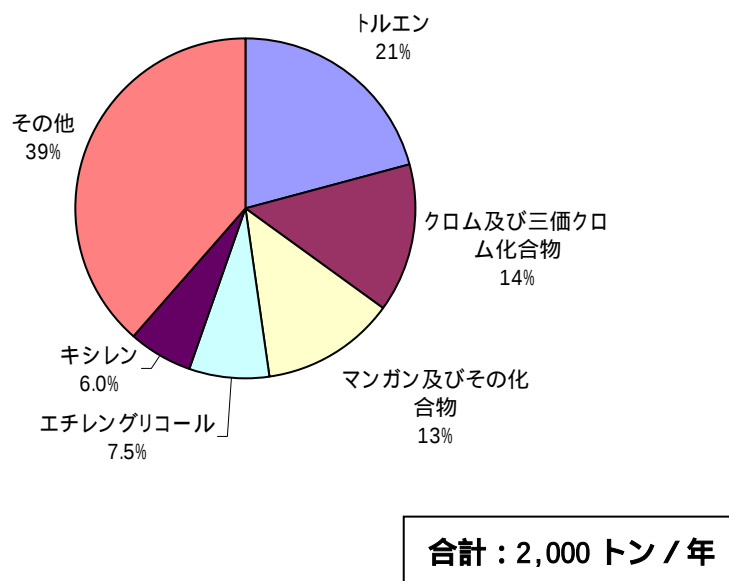
< 図9 公共用水域への排出量の内訳 >



c 事業所の外への廃棄物としての届出移動量

事業所の外への廃棄物としての届出移動量は2,000 トンで、最も多く廃棄物として移動した物質はトルエンの410 トン、次いでクロム及び三価クロム化合物の270 トン、マンガン及びその化合物の250 トン、エチレングリコールの150 トン、キシレンの120 トンの順となっています。

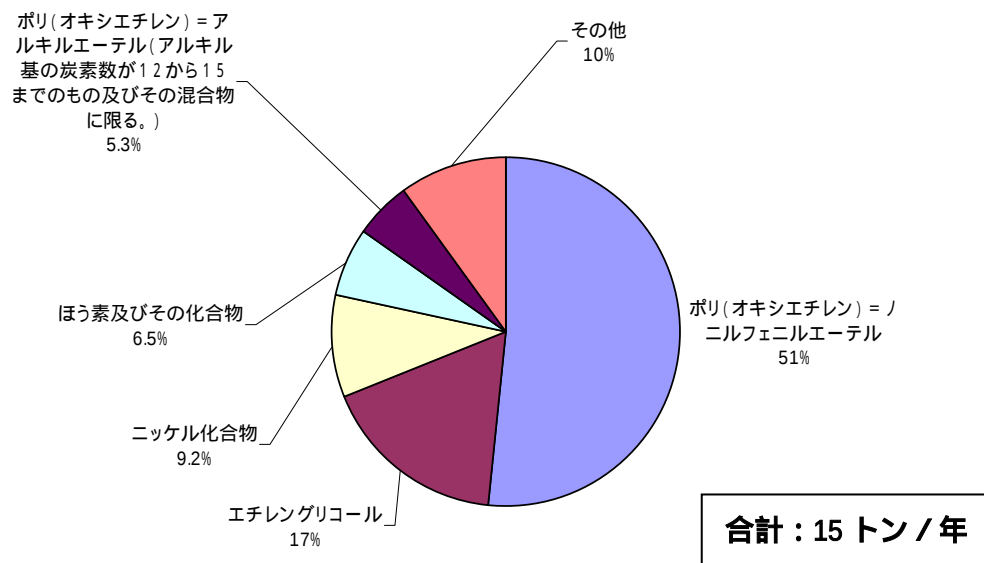
< 図10 事業所外への廃棄物としての移動量の内訳 >



d 下水道への届出移動量

下水道への届出移動量は 15 トンで、最も多く下水道へ移動した物質はポリ（オキシエチレン）＝ノニルフェニルエーテルの 7.7 トン、次いでエチレングリコールの 2.6 トン、ニッケル化合物の 1.4 トン、ほう素及びその化合物 0.98 トン、ポリ（オキシエチレン）＝アルキルエーテル 0.79 トンの順となっています。

< 図 11 下水道への移動量の内訳 >



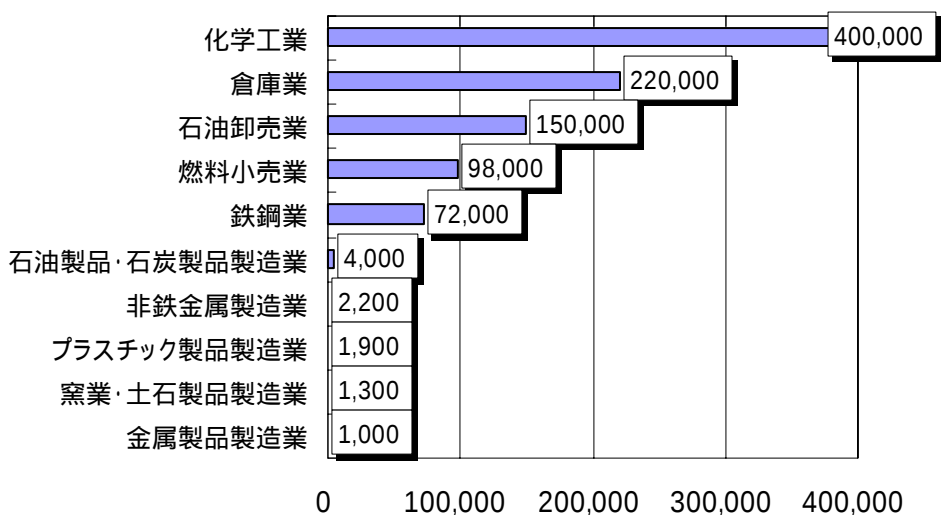
カ 業種別の届出取扱量・排出量・移動量

a 届出取扱量の多い業種

届出取扱量の合計の多い上位 10 業種は、図 12 のとおりで、多い順に化学工業の 400,000 トン、倉庫業の 170,000 トン、石油卸売業の 150,000 トンとなっています。

< 図 12 取扱量の多い上位 10 業種とその量 >

(単位：トン / 年)

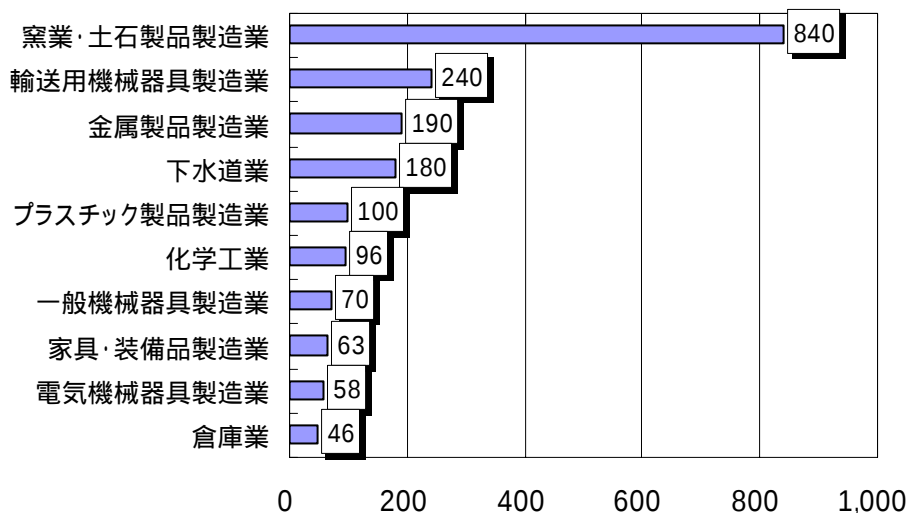


b 届出排出量の多い業種

届出排出量の合計の多い上位 10 業種は、図 13 のとおりで、多い順に窯業・土石製品製造業の 840 トン、輸送用機械器具製造業の 240 トン、金属製品製造業の 190 トンとなっています。

< 図 13 排出量の多い上位 10 業種とその量 >

(単位：トン / 年)

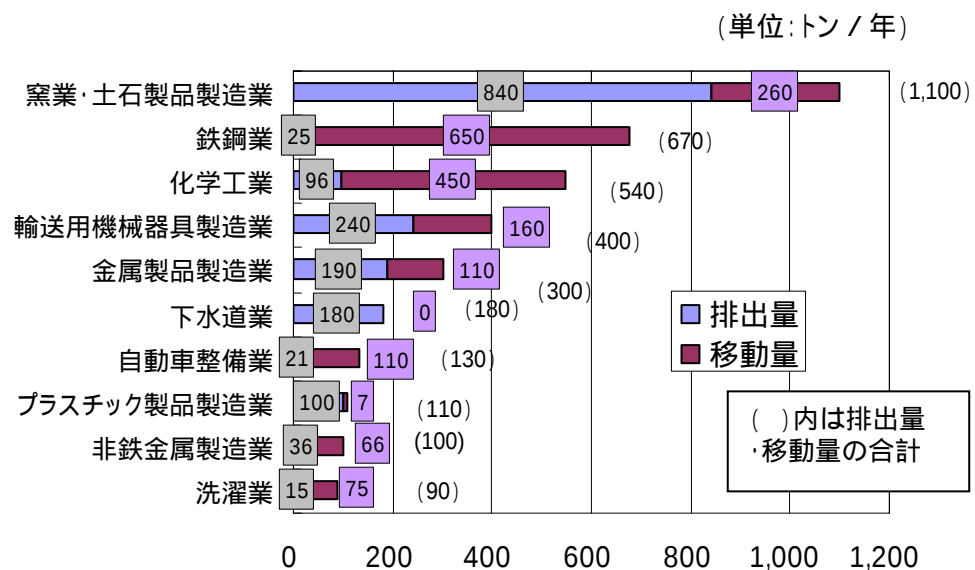


c 届出排出量・移動量の合計の多い業種

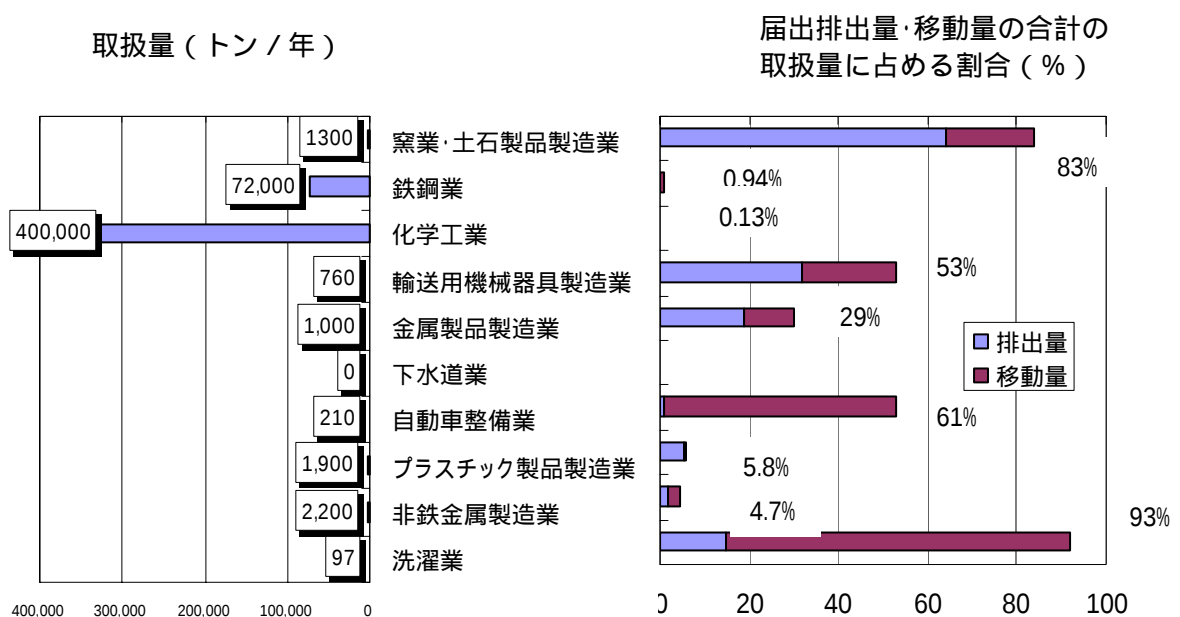
届出排出量・移動量の合計の多い上位 10 業種とその量は、図 14 のとおりで、多い順に、窯業・土石製品製造業の 1,100 トン、鉄鋼業の 670 トン、化学工業の 540 トンとなっています。

また、これら 10 業種の排出量・移動量の合計の取扱量に占める割合は図 15 のとおりで、大きい順に洗濯業の 93%、窯業・土石製品製造業の 83%、自動車整備業の 61%となっています。

< 図 14 届出排出量・移動量の合計が多い上位 10 業種とその量 >



< 図 15 届出排出量・移動量の合計の取扱量に占める割合 >

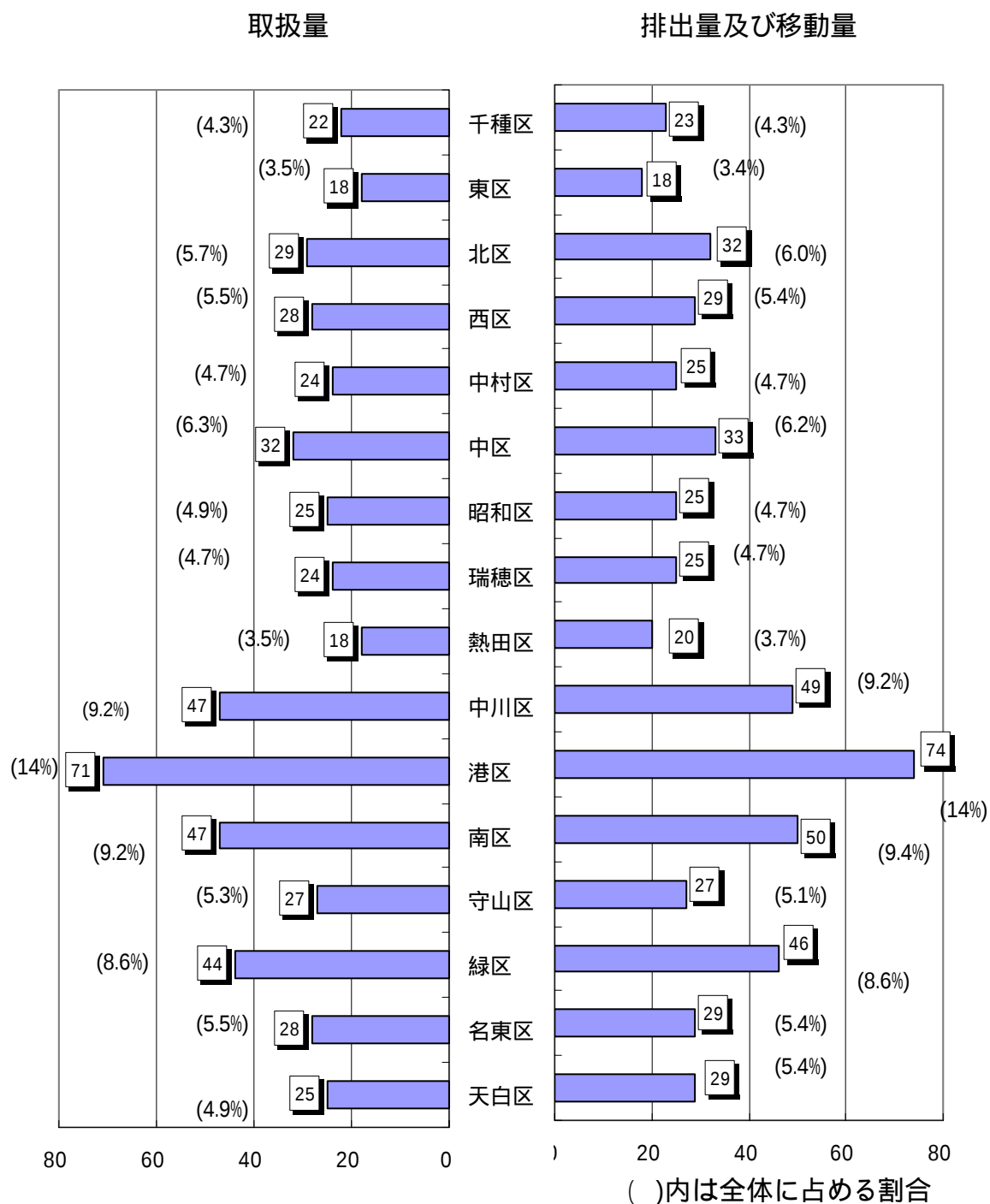


(2) 区別の届出集計結果

ア 区別の届出事業所数

区別の届出事業所数は、図 16 のとおりで、港区が最も多く、取扱量では中川区、南区が同じく 2 位、排出量・移動量では南区、中川区の順になっています。

< 図 16 区別の届出事業所数 >



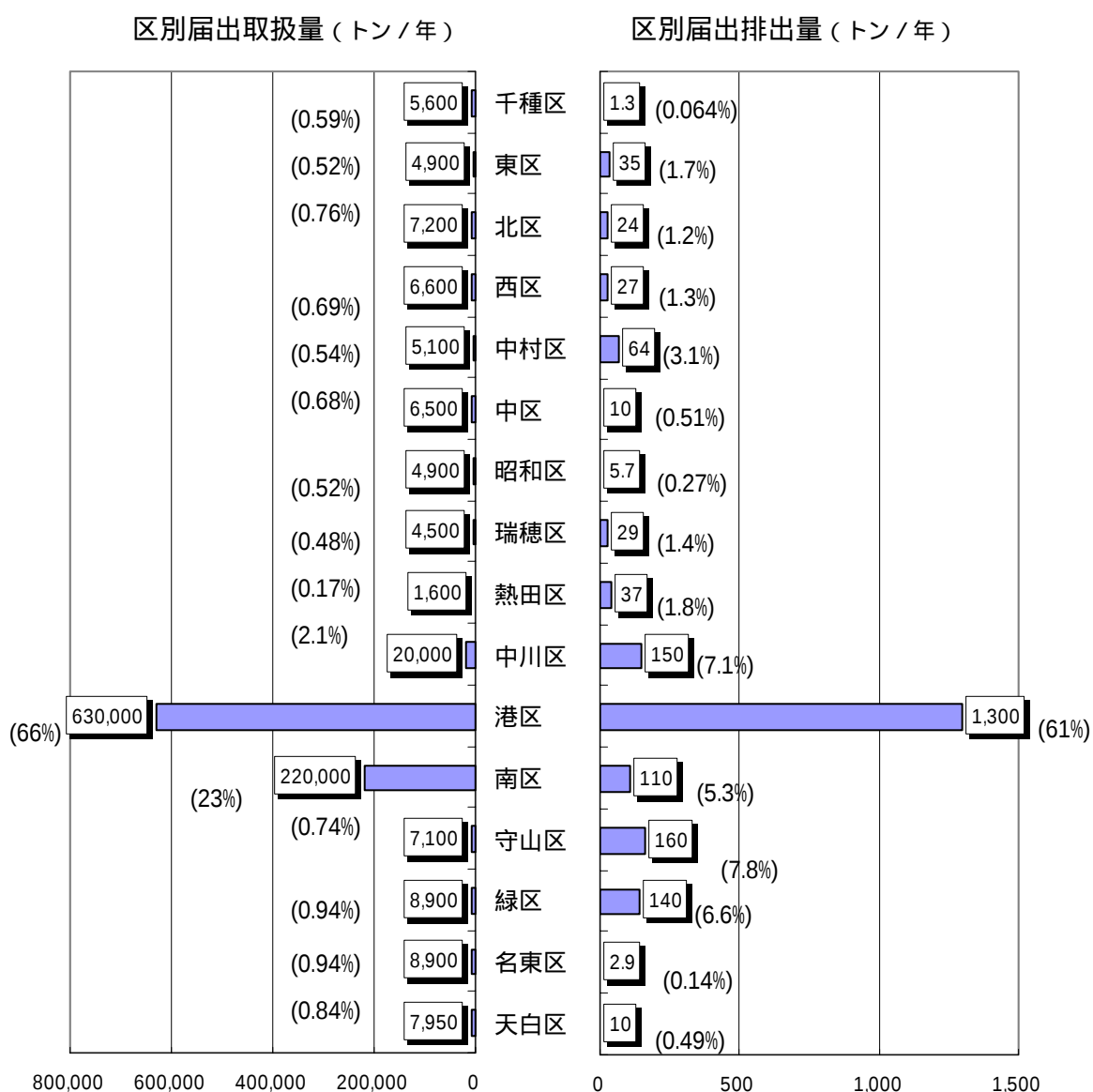
イ 区別の届出取扱量及び排出量

区別の届出取扱量及び届出排出量は、図 17 のとおりです。

届出取扱量は、港区の 630,000 トンが最も多く、市全体の 64%を占めます。次いで南区の 220,000 トン、中川区の 20,000 トンの順となっています。

届出排出量は、港区の 1,300 トンが最も多く、市全体の 71%を占めます。次いで、守山区の 160 トン、中川区の 150 トンの順となっています。

< 図 17 区別届出取扱量及び区別届出排出量 >



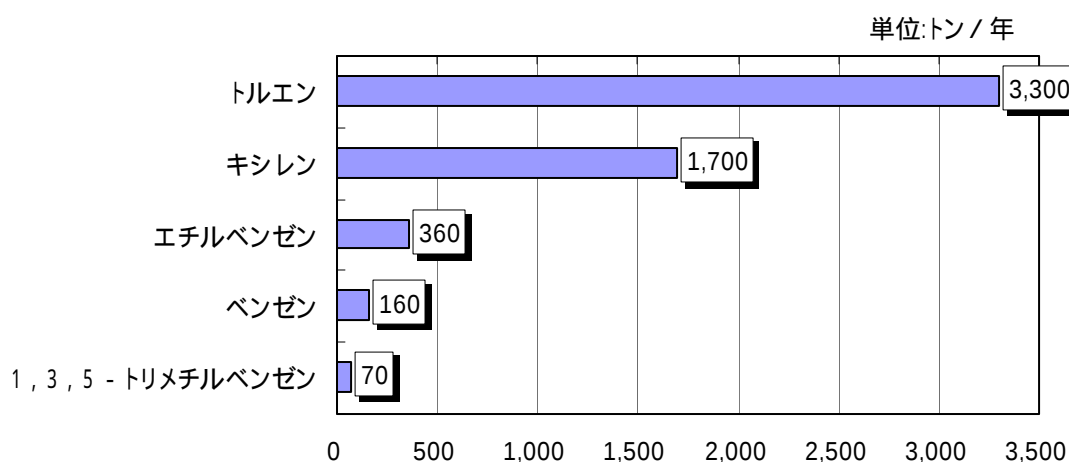
()内は全体に占める割合

ウ 区別の届出取扱量の多い物質

区別の届出取扱量の多い上位5物質とその量は、次のとおりです。

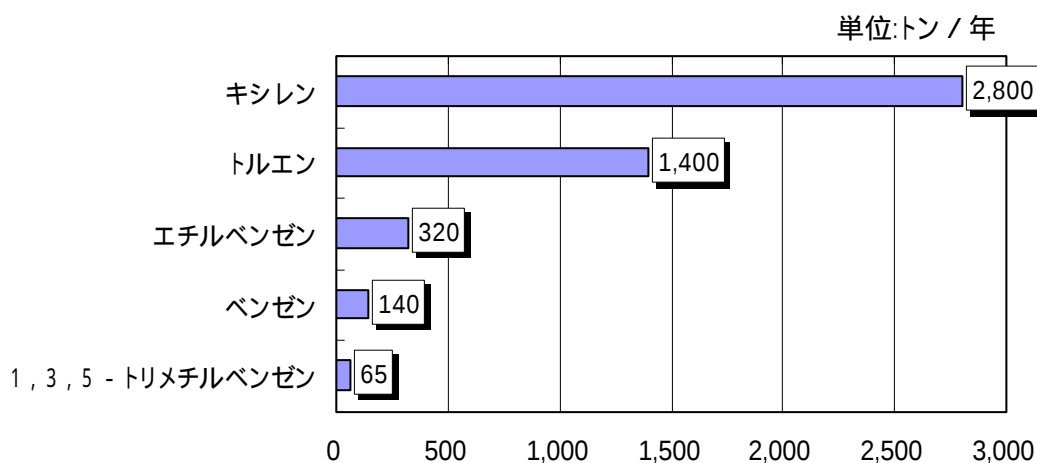
a 千種区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(千種区)



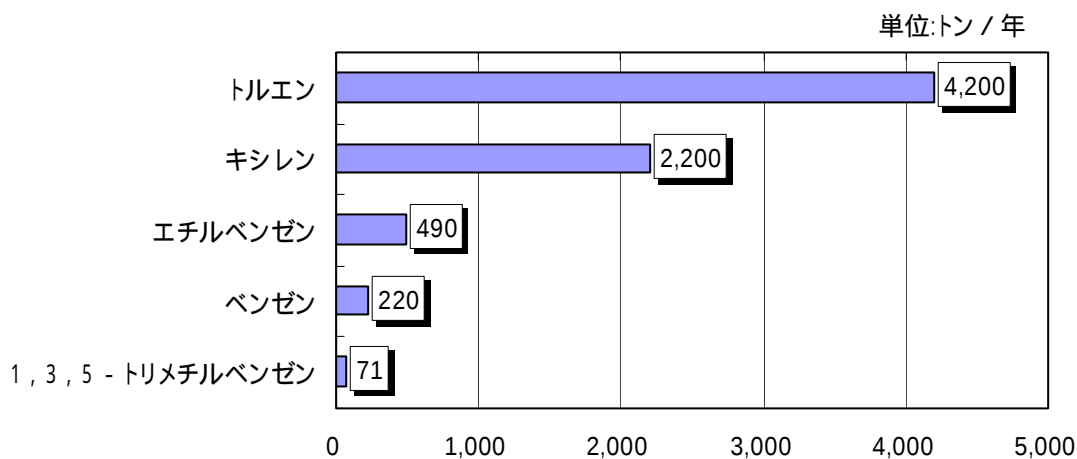
b 東区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(東区)

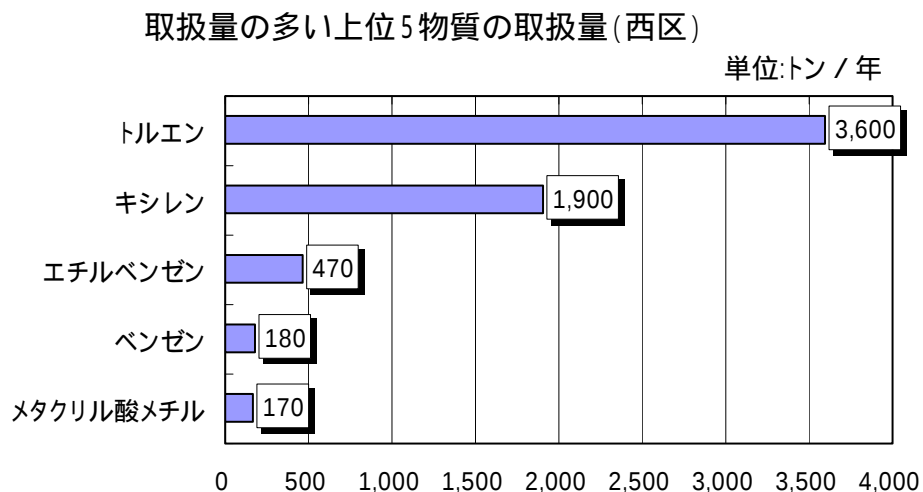


c 北区

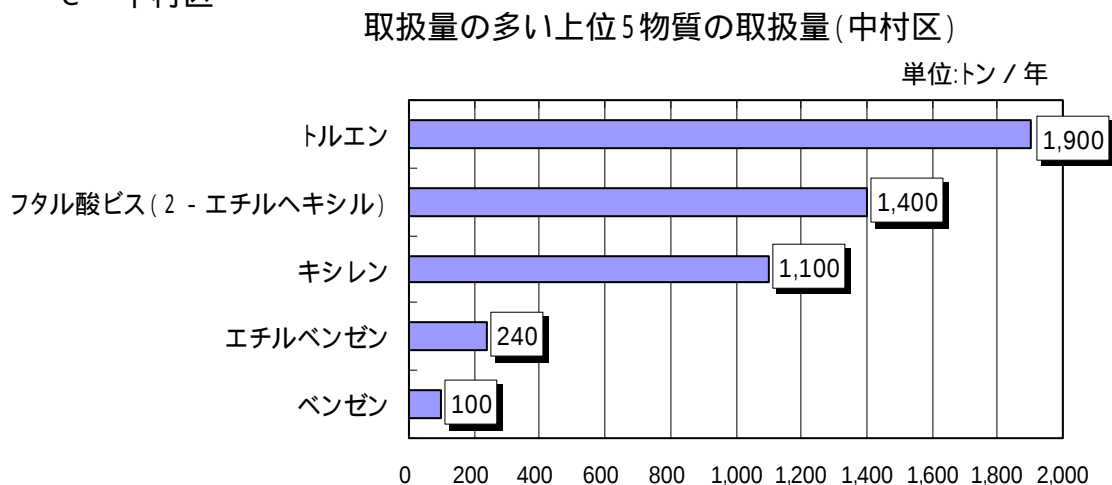
取扱量の多い上位5物質の取扱量(北区)



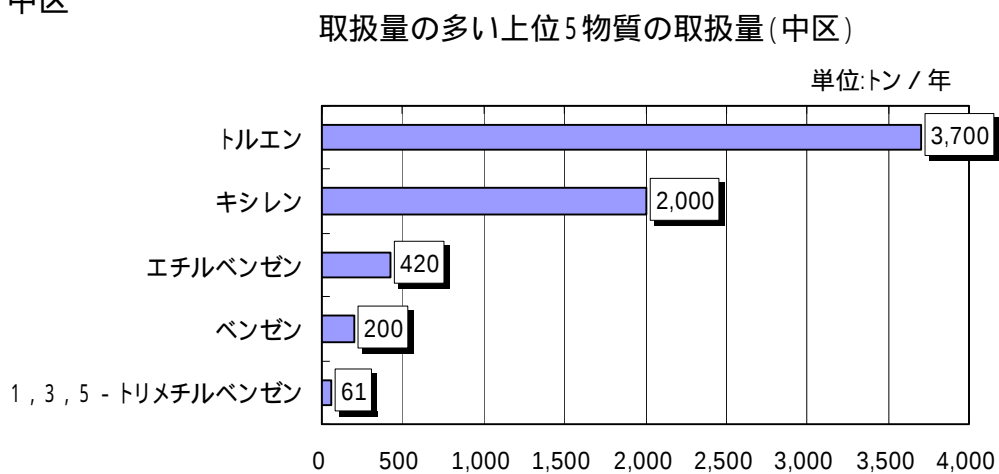
d 西区



e 中村区



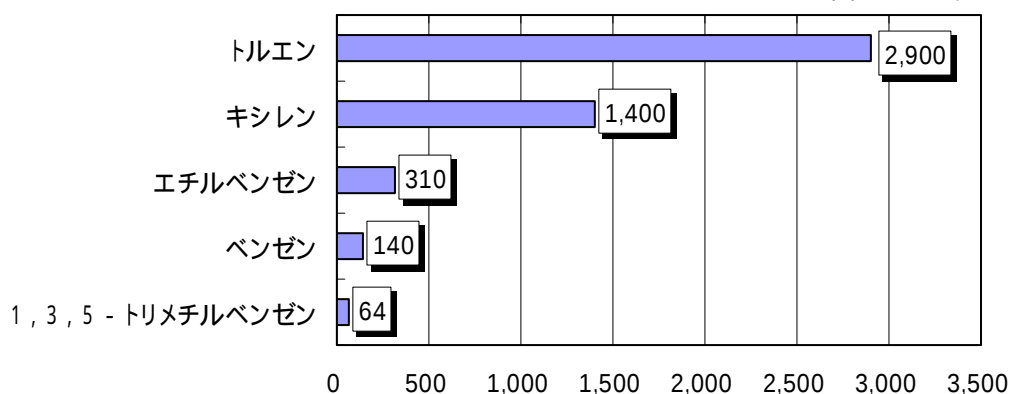
f 中区



g 昭和区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(昭和区)

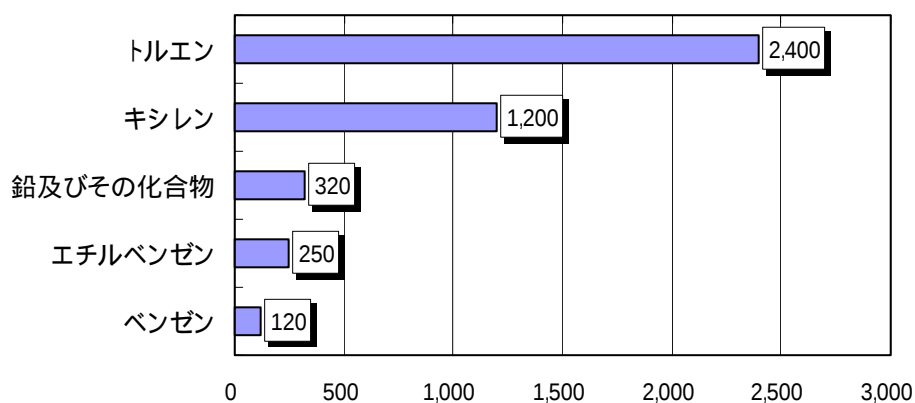
単位:トン/年



h 瑞穂区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(瑞穂区)

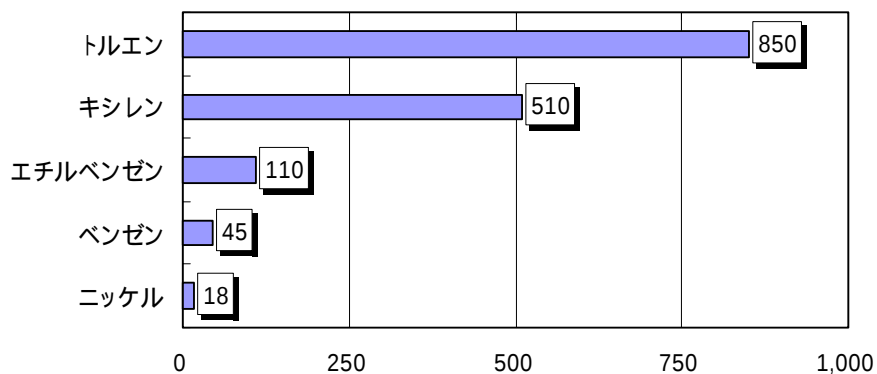
単位:トン/年



i 熱田区

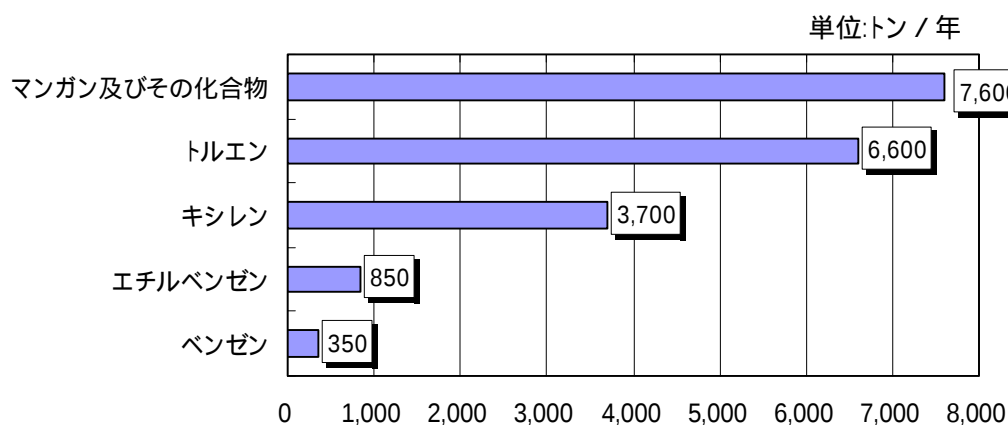
取扱量の多い上位5物質の取扱量(熱田区)

単位:トン/年



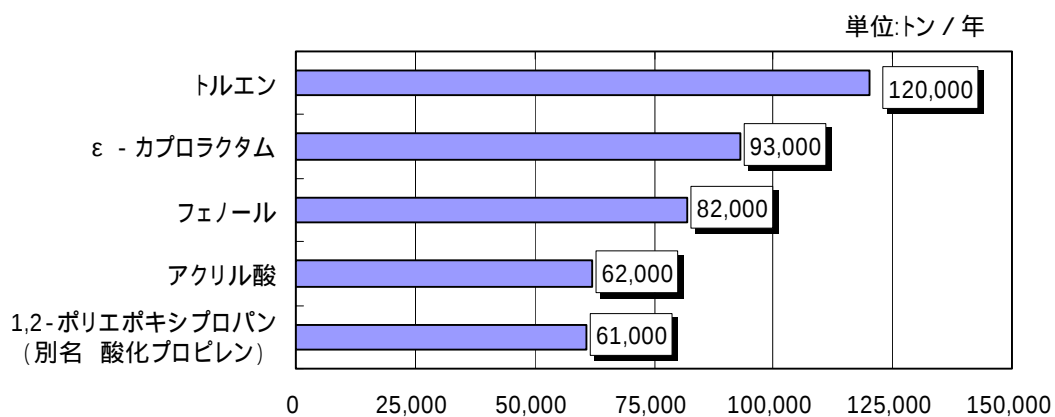
j 中川区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(中川区)



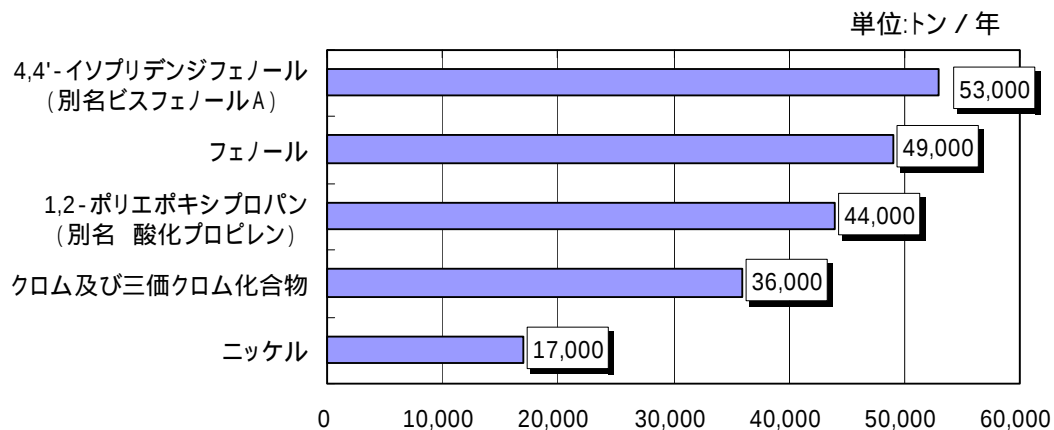
k 港区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(港区)



l 南区

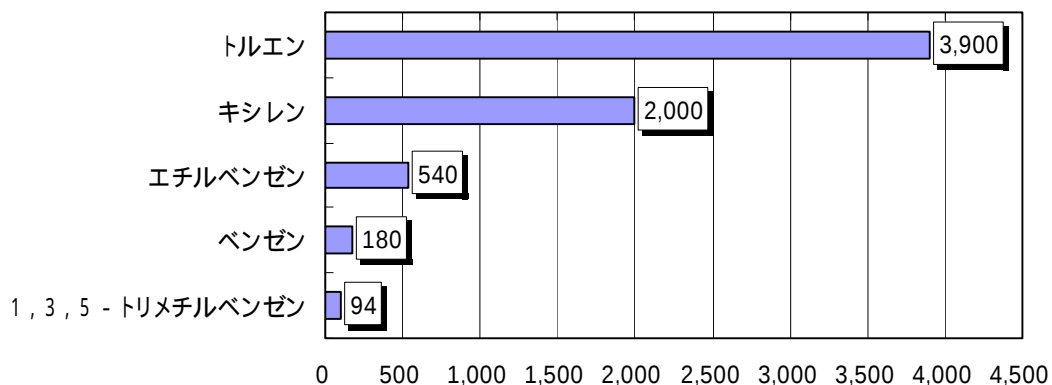
取扱量の多い上位5物質の取扱量(南区)



m 守山区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(守山区)

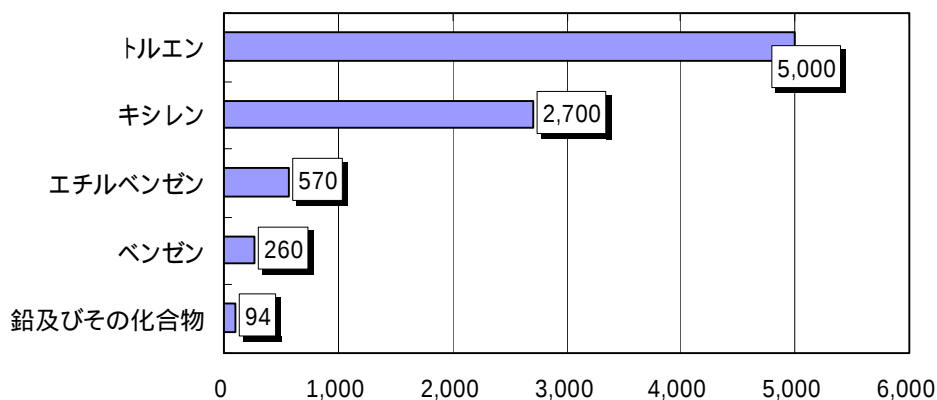
単位:トン/年



n 緑区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(緑区)

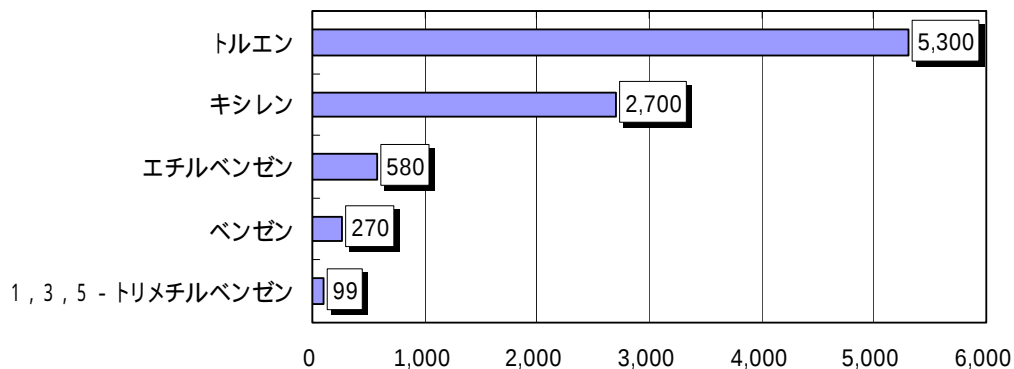
単位:トン/年



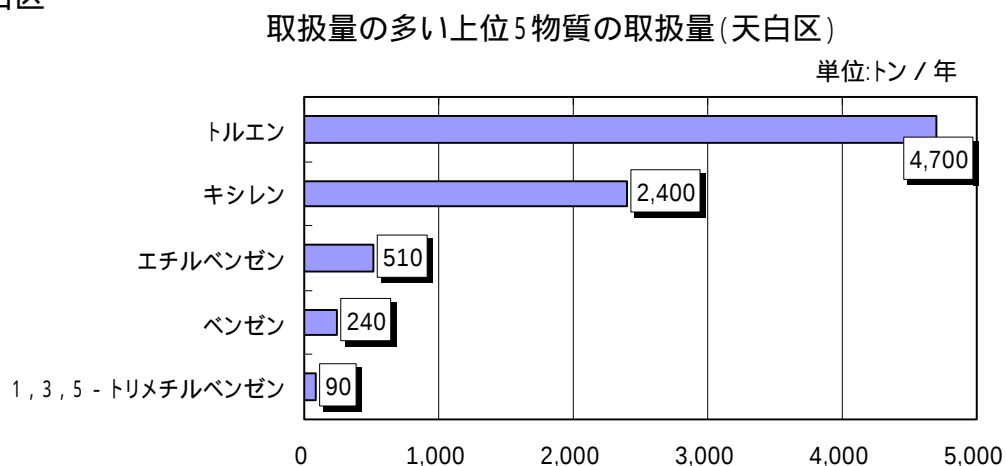
o 名東区

取扱量の多い上位5物質の取扱量(名東区)

単位:トン/年



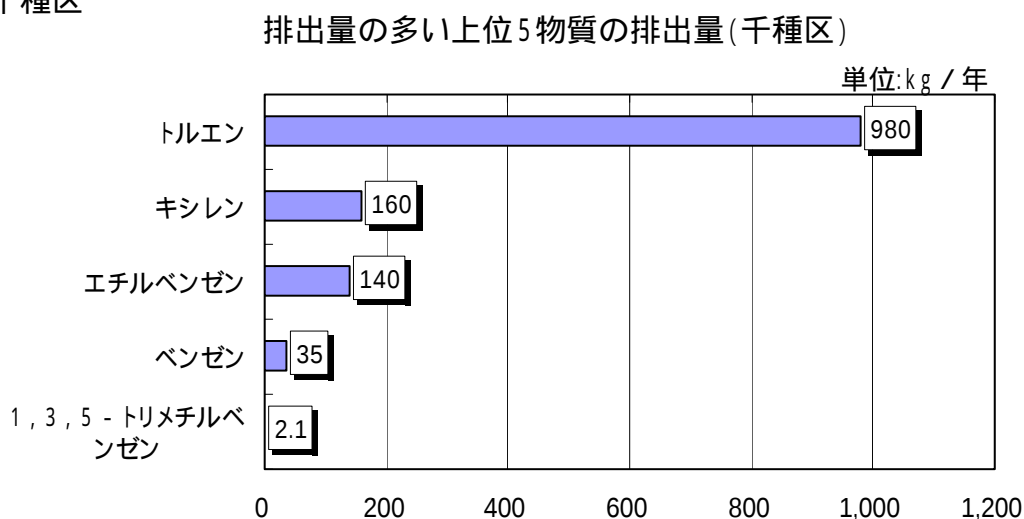
p 天白区



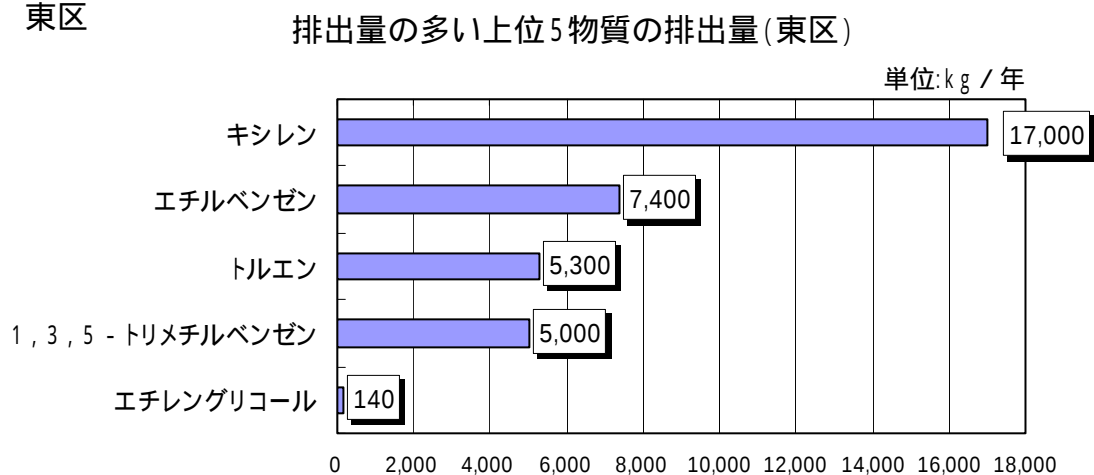
エ 区別の届出排出量の多い物質

区別の届出排出量の多い上位5物質とその量は、次のとおりです。

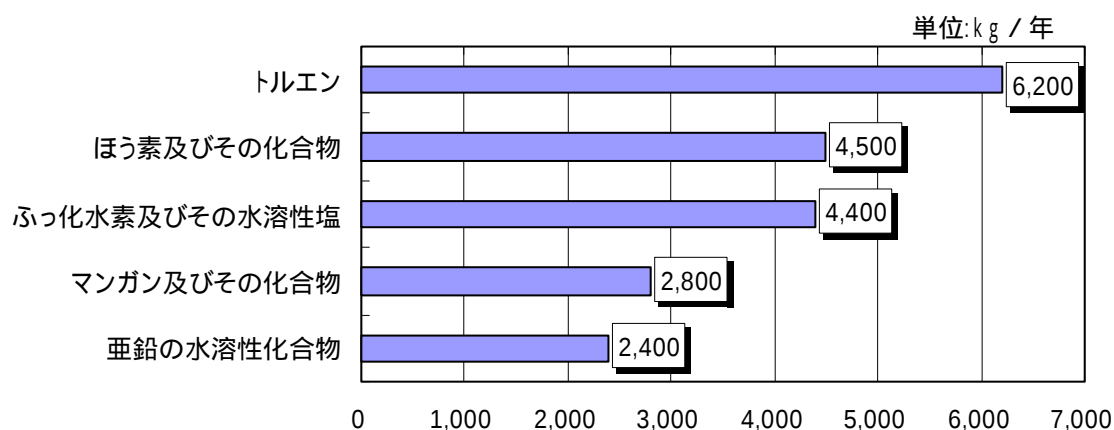
a 千種区



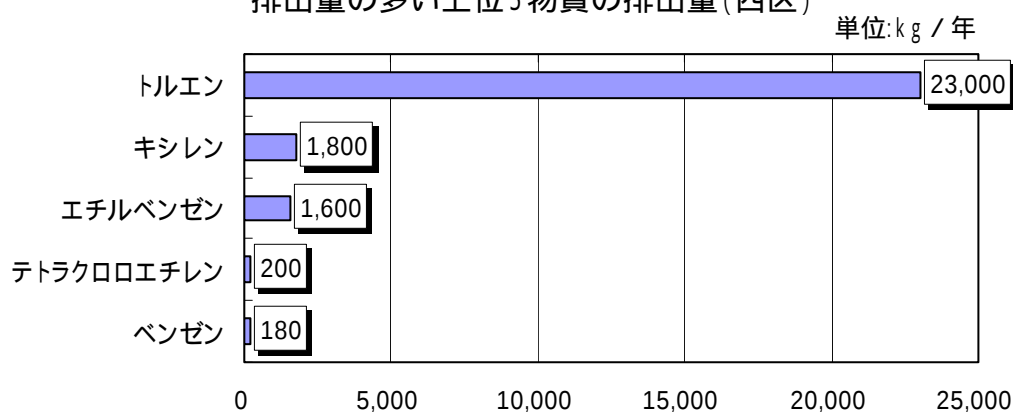
b 東区



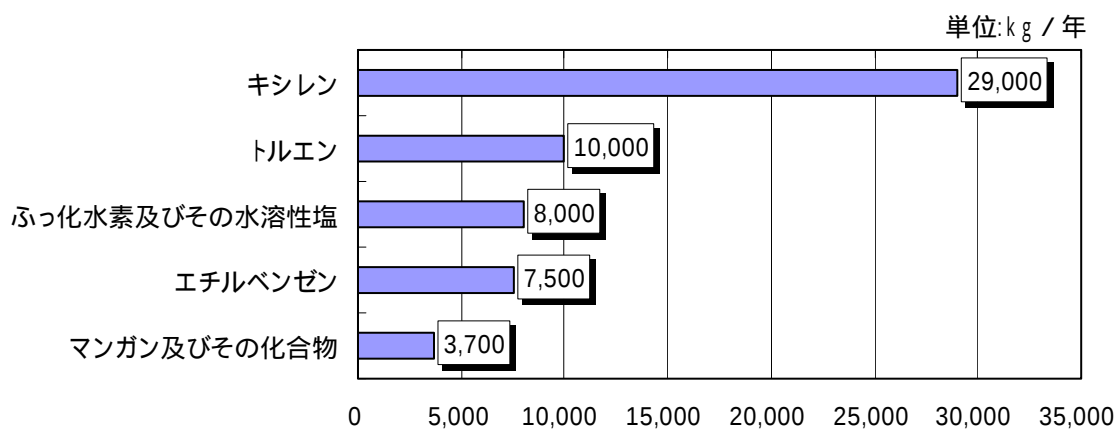
c 北区 排出量の多い上位5物質の排出量(北区)



d 西区 排出量の多い上位5物質の排出量(西区)

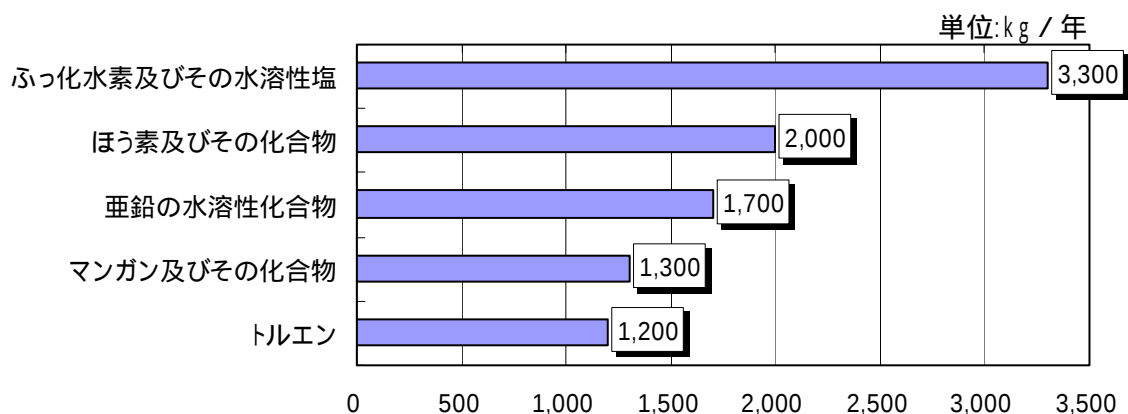


e 中村区 排出量の多い上位5物質の排出量(中村区)



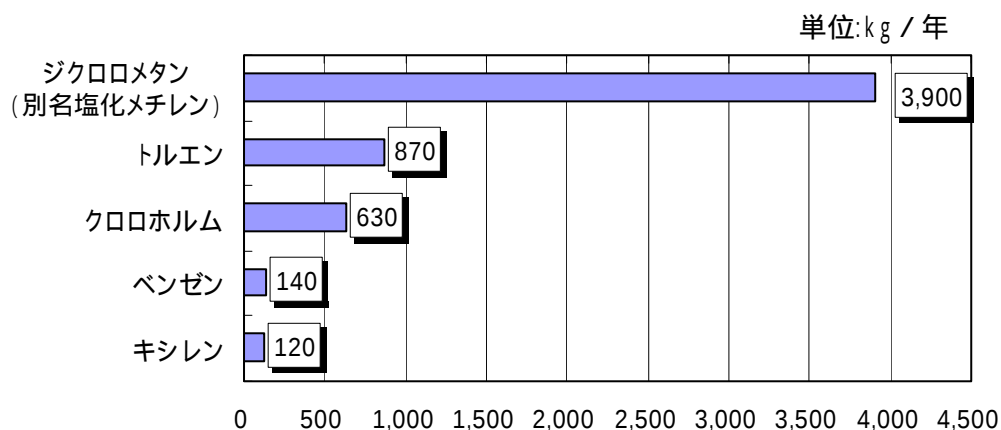
f 中区

排出量の多い上位5物質の排出量(中区)



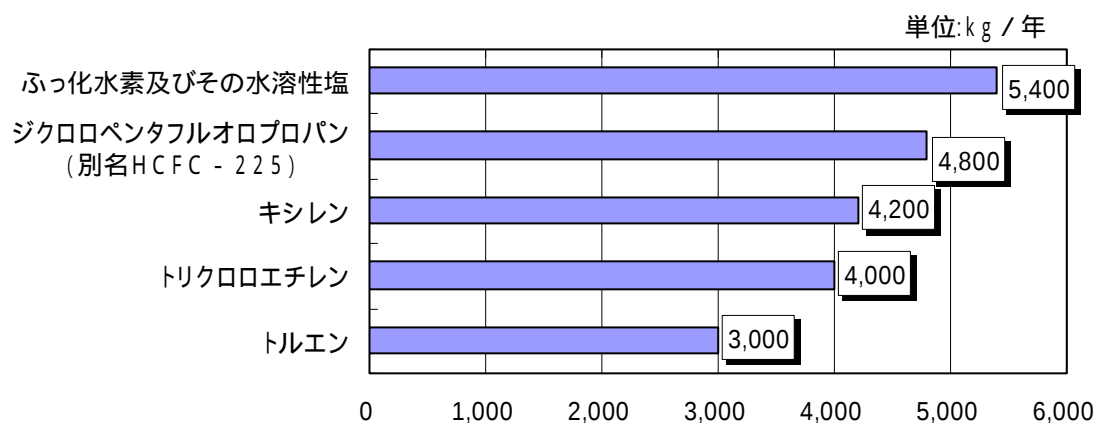
g 昭和区

排出量の多い上位5物質の排出量(昭和区)



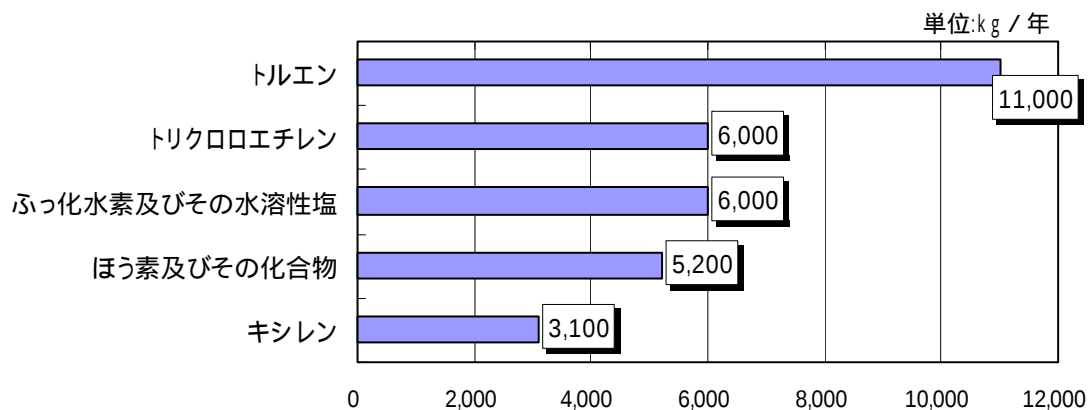
h 瑞穂区

排出量の多い上位5物質の排出量(瑞穂区)



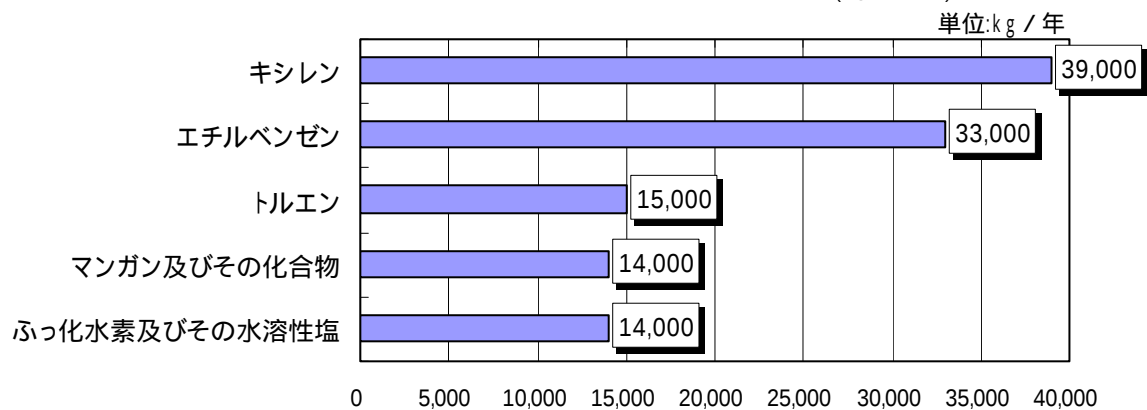
i 熱田区

排出量の多い上位5物質の排出量(熱田区)



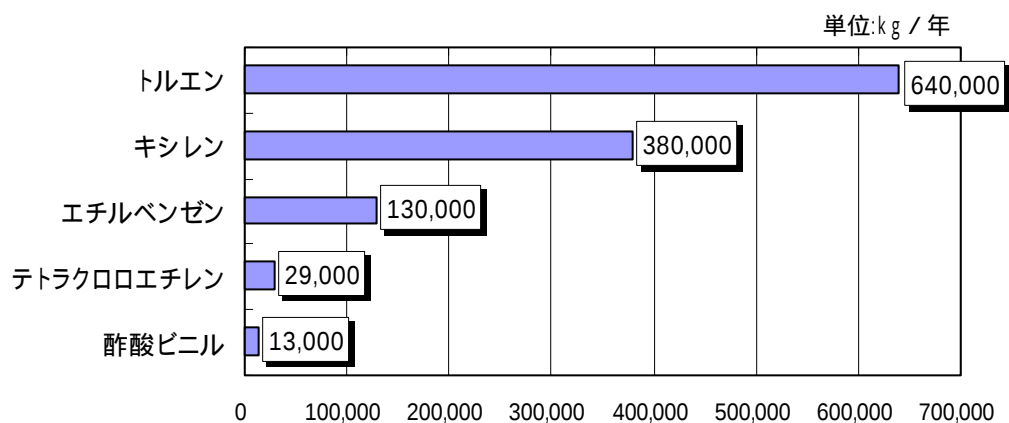
j 中川区

排出量の多い上位5物質の排出量(中川区)



k 港区

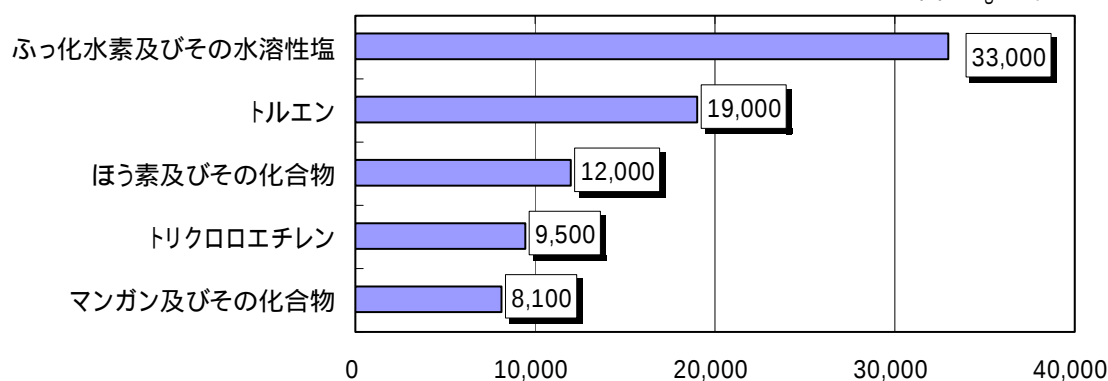
排出量の多い上位5物質の排出量(港区)



1 南区

排出量の多い上位5物質の排出量(南区)

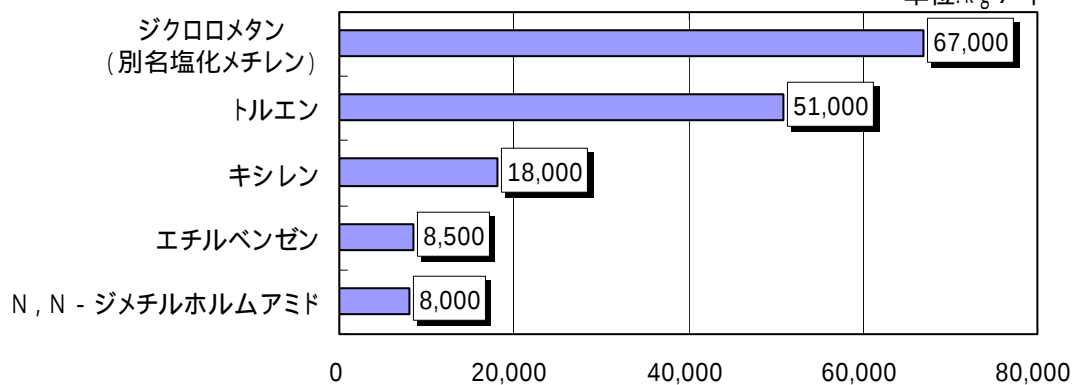
単位:kg / 年



m 守山区

排出量の多い上位5物質の排出量(守山区)

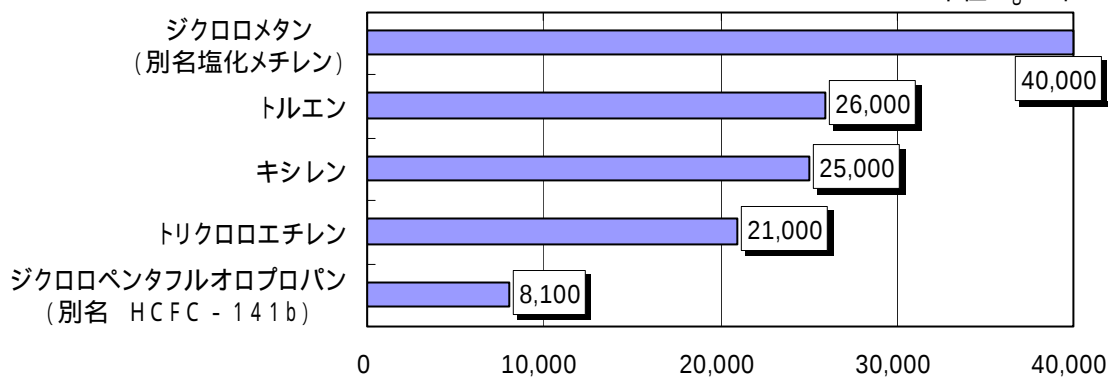
単位:kg / 年



n 緑区

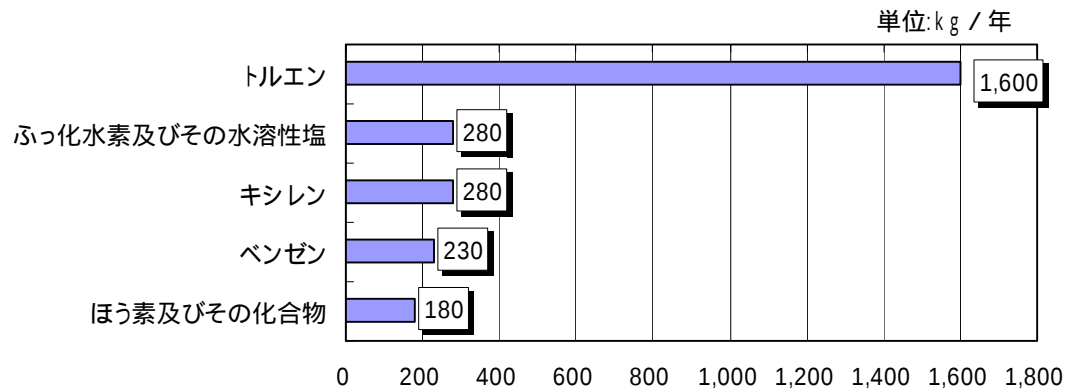
排出量の多い上位5物質の排出量(緑区)

単位:kg / 年



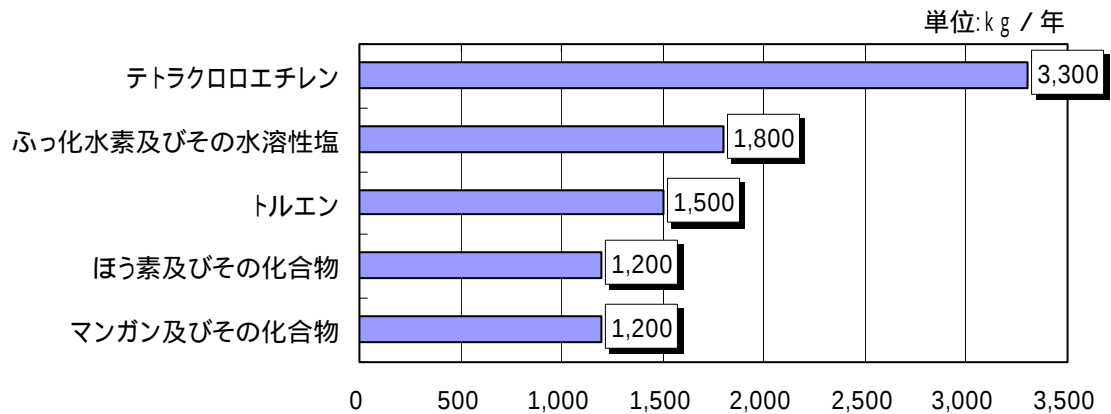
o 名東区

排出量の多い上位5物質の排出量(名東区)



p 天白区

排出量の多い上位5物質の排出量(天白区)



参考

1 全国及び愛知県の届出集計結果との比較

排出量及び移動量における、全国及び愛知県の届出集計結果との比較は表4のとおりです。名古屋市全体の排出量及び移動量は、全国の0.9%、愛知県の12%程度を占めています。

<表4 全国及び愛知県の届出集計結果との比較>

項目	全国	愛知県	名古屋市
届出事業所数	40,980	2,517	534
届出排出量(トン/年)	250,000	18,000	2,100
届出移動量(トン/年)	230,000	16,000	2,000

2 全国や愛知県の届出集計結果の詳細

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/chemi/prtr/result/index.html>) を参照してください。

3 化学物質の用途や健康影響

環境省では、専門的で分かりにくい化学物質の情報を、専門家以外の方にもよく理解していただけるよう簡潔にまとめた「化学物質ファクトシート - 2006 年度版 - 」を作成しています。

環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/chemi/communication/factsheet.html>) を参照してください。